

第152回くらしの植物苑観察会 2011年11月26日(土)

## 明治の菊の仕立て

平野 恵(さいたま市大宮盆栽美術館)

### はじめに

菊は、様々な仕立て方があります。今回は、私たちがよく目にする仕立て方がいつから行われてきたかの歴史を紐解いていきます。

### 1 菊の懸崖はいつから？

懸崖は、新宿御苑や神社仏閣の菊花展でよく見られる仕立て方です。垂れ下がるように仕立て、切り立つ崖に懸かるように見えることから名付けられました。植木鉢を高い位置に配し、鉢植全体の姿を楽しむのが基本となります。

懸崖は、盆栽にもある仕立て方です。記録の上では盆栽の方が早く、明治22年(1889)、愛知県の盆栽愛好家の「樹盆栽一覧表」に、「懸崖梅」「懸崖松」「懸崖紅葉」の語が見られます。明治25年の『美術盆栽図』には、「懸崖」の語は見られませんが、図を見る限り、懸崖とってよい盆栽もたくさん描かれています。明治36年『盆栽瓶花聚楽会図録』になると、「杜松懸崖」など多くの懸崖盆栽が図とともに紹介され、懸崖の語が普及したことがわかります。

「懸崖」の語は、明治20年代に盆栽が先んじて用い、菊は40年代に登場します。「文人作り」「文人仕立」とも呼び、盆栽と用語上での共通点が多いのが注目されます。



### 「第三節 懸崖風栽培

此の栽培は初春の頃径四五寸高さ七八寸以上の常滑鉢或は本焼鉢に植付けて前節に述たるが如く兩三回芽を摘み枝條を続出屈曲させるのである。(中略)亦鉢に仕上られたるものゝ方が開花觀賞の際に至りて雅致に富めるものが多く出来る。此の仕立方は文人などに愛でられるから一名文人作り或は文人仕立とも云つて居る。」(明治44年/1911 日本園芸会著『菊花栽培秘訣』)

### 「山菊の懸崖作り

此図は紅世界を山菊の懸崖作りにしたる者にて雅味ありて面白し。此作方は菊の一尺位に伸し物を段々下垂する様茎の堪へ得る程度の石を垂下げ肥料を施し伸るに従ひ糸にて結び付け下垂せしむるなり。優良なる物は六尺以上に垂下す。此図は山菊平作車留を山菊平作にしたる者にて最優美高尚なれば座敷等に陳列して実に妙味多し。」(猪子岩三郎著『菊花画譜』大正7年/1918 国立国会図書館蔵)



新宿御苑の懸崖作りは、大正4年(1915)から始まったとされています。

## 2 菊花壇のいろいろ

菊花壇は、地植えにしなくても「花壇」といいます。鉢植を並べ日覆いをかけるだけの菊花壇から、見せるための工夫を凝らした菊花壇の諸相を紹介します。

- ・楊洲周延「江戸風俗十二ヶ月之内 九月染井造り菊ノ元祖」（明治23年／1890千葉県立中央博物館蔵）  
江戸の風俗を明治時代に描いた作品。巨大な植木鉢を配する花壇と、菊の高さが異なる花壇の二つが描かれていることがわかります。

- ・大隈邸内の菊 明治末頃（早稲田大学史資料センター蔵）  
江戸菊を地植えにして奥を高くし、横一直線に整列させています。

- ・絵葉書「〔団子坂菊花〕（種半園）花壇ト一本幹千輪咲〔其一〕」  
明治30年代の菊花壇。植木屋「種半」では、土を盛り上げて奥に行けば行くほど高くなるように仕立てています。



- ・現代の菊花壇：地植えでも植木鉢を置くだけでも、基本は、奥が高くなるように仕立てています。

新宿御苑の肥後菊花壇／国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑／名古屋城／湯島天満宮／亀戸天満宮  
／枚方パーク／京都府立植物園

## 3 江戸時代の作り菊

- ・『宴遊日記』安永7、8年「躑躅を作る」「松を作る」
- ・『草木育種』の松の項／『金生樹譜別録』の松の項
- ・作り菊『藤岡屋日記』など

## 4 そのほか菊の仕立て方いろいろ

簪作り、菊盆栽、  
千輪咲、接分菊、  
菊人形・・・



.....  
**次回予告** 第153回暮らしの植物苑観察会 2011年12月3日（土）

「サザンカを殖やして楽しむ」 箱田直紀（恵泉女学園大学名誉教授）

13：30～15：30（予定） 苑内休憩所集合 申込不要